

趣意書

今より一千二百年前の弘仁三年(八二二年)平安京の高雄山寺(現京都神護寺)に於いて高雄灌頂が開壇されました。

この灌頂は歴史的にも日本仏教にとっても大変注目すべき出来事であり、当時の高僧方が集い入壇されております。また密教を受法継承する儀式としても今なお脈々と受け継がれています。

灌頂には入壇する人の人生観を変え、佛様との結び付きをより強くする力があります。実際に平成二十年に開壇されました種智院大学、種智院大学同窓会による『石山寺結縁灌頂』に於いても入壇された多くの方々から「いい経験でした」「涙があふれてきた」「本当にありがたかった」等の感想が寄せられました。それぞれが佛様の世界を体験され無魔成満致しました。

この石山寺結縁灌頂を踏まえ、さらなる灌頂法儀の興隆、願わくはより多くの方々に佛縁を感じて頂きたく、弘法大師灌頂一千二百年記念を機に有志を集め、関係各位のご協力を頂いて平成高雄灌頂実行委員会を立ち上げました。

昨年は東日本大震災や台風被害など未曾有の災害が起りました。そんな時、私たちは佛様に手をあわせる事、供養する事の大切さ、後世に伝え残す事の重要性をひしひしと実感いたしました。

このような時代にも、一千二百年前に記された弘法大師直筆の国宝『灌頂曆名』は今もなお残っております。

現代に生きる私たちは、その生の証を残し、また次の世代に引き継ぐために、再び平成の『灌頂曆名』を製作保管し、佛縁の大切さ、手をあわせる事の大切さを伝えたいと思います。

今、私たちが僧侶であることは、お大師様の徳行のお陰で御座います。その徳行を讃え、恩に報いる事は文化を継承し、その教えを広める事にあると考えます。そして人々が佛縁を感じ、お互いを敬い、思いやりのある世の中を作る導きになるよう高雄灌頂を開壇したく存じます。

この趣意をお酌みいただき、ご協力ご参加頂けますよう、心よりお願い申し上げます。

合掌

平成二十四年三月二十一日

平成高雄灌頂実行委員会

大塚知明